

令和4年度秋田市社会福祉審議会 第3回地域福祉専門分科会会議録

日 時：令和5年3月29日(水) 13時30分から14時30分まで

場 所：秋田市役所本庁舎5階 正庁

出席者：委員9人

事務局 ○地域福祉推進室

東海林室長、藤島副参事、石川副参事、笠井副参事、進藤副参事、
佐藤（英）主席主査、相澤主査、佐藤主査、鈴木主事

欠席者：上村清正委員、佐々木真委員、羽瀨友則委員

【議事】

主な意見

(1) 秋田市地域福祉市民意識調査結果について

- | | |
|--------|---|
| (黒崎委員) | ○有効回答者の年齢別のデータはあるのか。 |
| (事務局) | ○資料1の8ページ(34)質問34-2が年齢についての質問であるため、参考にさせていただきたい。 |
| (船木委員) | ○有効回答者の年齢について見ると、若い世代の回答率が低くなっている。若い世代もボランティアに参加している人たちは多いように思うが、地域福祉に関しては興味が薄いようにも感じられる。どうやって若い世代にも地域福祉に関する興味をもってもらえるかが課題であると考えます。 |
| (事務局) | ○来年度の策定作業の中で、パブリックコメントや関係機関などへのヒアリングでそのあたりの声も聞くことができるようにしたい。 |
| (遠藤委員) | ○新型コロナウイルス感染拡大によって、ボランティア活動ができていないところも多いと思うが、新型コロナウイルスに関する質問がないのはなぜか。 |
| (事務局) | ○今回の市民意識調査は、前回調査との比較を主な目的としているため、新たに新型コロナウイルスに関連した質問は設けなかった。 |
| (遠藤委員) | ○新型コロナウイルスの影響で割合が下がっている質問もあると考える。このことについて注釈をいれるなど触れることはできないか。 |

- (事務局) ○民生委員や地区社協などの関係機関にヒアリング等を行い、収集した意見を反映させたい。
- (佐藤委員) ○資料1の1ページ(1)質問1について、「福祉に関わる仕事やボランティア活動をしている」とあるが、福祉に対して仕事で関わる人とボランティアで関わる人は違うため、分けるべきだったと考える。
- (事務局) ○次回、同様の調査を実施する際には検討していきたい。

(2) 第5次秋田市地域福祉計画の策定方針について

- (黒崎委員) ○第4次計画における重点事項として重点事項1「孤立化を防ぐ支え合いの地域づくり」、重点事項2「災害に備えた支え合いの地域づくり」を進めており、第5次計画においても引き続き取り組んでいくこととなるが、実際にそれに向けて動く市民にとって、理解がしやすく、地域として具体的に何をすべきかわかりやすい計画を策定していただきたい。
- (佐藤委員) ○関係機関へのヒヤリングについて、教育機関からも意見を聞いてはどうか。
- (事務局) ○情報源を広く活用するためにも、検討していきたい。
- (黒崎委員) ○コミュニティソーシャルワーカー(CSW)について、資格がある人でないとなれないのか。また、地域で活動している人がCSWに近い動きをすることができないものか。例えば、包括支援センターのコーディネーターなど、その役割を担える人は多いと考える。資格がなくても指導・教育を通してそのような人材を増やしていくことができる仕組みづくりに取り組んでいただきたい。
- (事務局) ○重層的支援体制整備事業とも関連するものだと思われる。詳細については今後検討していきたい。
- (船木委員) ○成年後見制度に関して、市民後見人等の検討も進めているが、地域包括支援センターにおいてどこまで踏み込んでいいものかわからず、苦慮している。そのため、地区社協や民生委員など、関係機関との連携についても考えていきたい。
- (三浦委員) ○コロナ禍において、認知症が進んだ人が増えたように感じる。民生委員は傾聴を心がけて、そういった方々に接しているが、

地域住民においても認知症の方に対する接し方や傾聴のための心がけについての研修を受けてもらい、地域での活動の機会を増やしていただきたい。

(佐々木委員)

○重点事項2「災害に備えた支え合いの地域づくり」について、当園では避難訓練等を行ってはいるが、地域や町内会との関わりは少ない状況にある。一方で、災害時には、地域の協力を得ることは大事であると考えている。そのため、他の機関・団体はどのように地域との連携を図っているのか教えていただければと思う。

(事務局)

○ただ今いただいた意見等については、今後の策定作業を進める中でより具体的に検討していきたい。

(3) その他

(特になし)

(以上)